

洛北SSHだより

Super Science Highschool

2009年7月8日発行 第3号

・生命科学特別講義
高校1年中高一貫コース

生命科学 I 特別講義「霊長類学へのいざないーゴリラ研究の最前線ー」

講師 京都大学大学院理学研究科 教授 山極 壽一 先生

6月17日(水)の5・6限に生命科学I特別講義の第一回として京都大学の山極壽一先生に講演していただきました。山極先生には本校のSSH運営指導委員として長年お世話になっており、本校での講演も三度目となりました。また、国際霊長類学会の会長に就任され、国内外でたいへんお忙しくされている中、本校の生徒のために時間を割いていただきました。今年度の特別講義では「ゴリラ研究の最前線」という副題で、最近NHKで放映された「ゴリラ先生 ルワンダの森に行く」でのマウンテンゴリラとの再会シーンまで見せていただき、大変おもしろい講演をしていただきました。テレビでは言えなかったことを山極先生が洛北高校の生徒だけに話してくださり、一同たいへん得をした気分になりました。



ドラミング

講演の内容は、霊長類研究は本校の卒業生である今西錦司博士をリーダーとして日本で始まり、「ジャパニーズ・メソッド」という個体識別による研究手法が世界の主流となっていったことを紹介されました。

ゴリラのさまざまな行動を画像によって説明していただき、特に「ドラミングには威嚇だけでなくいろいろな意味があるのだ」ということに生徒たちは関心を持って聴いていました。

またゴリラの行う「遊び」や「笑い」などについてもお話がありました。ゴリラは大人になっても遊び、笑うので、最近のCMは誤りであるということも指摘されていました。また人類進化の研究視点から、ヒトと他の類人猿の生活史を比較して、子育て期間の長さのちがいや、青年期はヒトに特有の期間であることなどを紹介されました。26年ぶりに調査地を再訪して再会した「タイタス」や「タック」が山極先生を思い出して、表情を変える映像は先生の「テレビでは言わなかった」解説に聞き入りながらみんな納得して見ていました。(写真は山極先生撮影のもの「ゴリラ図鑑」より)

今回は今までより、質疑応答時間を長くとりました。活発な質問に山極先生から非常によかったとお褒めの言葉をいただきました。2009年は国際ゴリラ年ですので、次回の特別講演もゴリラを研究対象とされている大阪大学の中道先生にお願いしています。今度は動物園のゴリラのお話を聞けるとお思いますので期待してください。

7月12日(日)の深夜0時15分からNHK教育TVの「NHKアーカイブス」で2年前に本校にて講義をしていただいた京都大学霊長類研究所の松沢哲郎先生の「ことばを覚えたチンパンジー アイちゃんの子育て日記」が再放送されます。2年前にたいへん好評を博した先生のお話がまた聞けるとお思います。また、最近の研究の様子もいろいろと紹介していただきますので、ぜひ一度見て下さい。



微笑(26年前のタイタス)